

一見 勝之三重県知事インタビュー

熊野古道世界遺産登録20年 「国際シンポや近隣連携で全国アピール」



一見 勝之（いちみ・かつゆき）亀山市出身。1986年東京大卒、運輸省（現国土交通省）入省。94年国際観光振興会パリ事務所次長、2006年国土交通省大臣秘書官、18年海上保安庁次長、19年国土交通省自動車局長。21年9月から現職。

全国屈指の観光資源を持つ三重県。豊富な食を支える農林水産業に加えて歴史・文化遺産にも恵まれた県だが、人口減少や物価高、交通の環境整備など課題も抱えている。知事に就任して3年目を迎える一見勝之氏は手堅い中にも次々と独自色を打ち出し、手腕を發揮しているように見える。知事1期目の総括期を前に昨年を振り返り、2024年の県政の展望などを語ってもらった。

（聞き手は塚本隆編集長、中原道文編集顧問）

——知事任期を折り返した2023年を振り返って感想をお話してください。

一見知事 昨年は5月にコロナが5類に変更され、経済、人流が戻ってきました。6月にG7三重・伊勢志摩交通大臣会合があり、11月19日には国道23号線の中勢バイパス（鈴鹿市—松阪市33.8km）が全線開通しました。約40年の長きにわたって工事をしてきたもので、県内の交通・物流がスムーズになりました。県庁では、令和5年度当初予算の中で総額100億円に及ぶ「みえ子どもまるごと支援パッケージ」を取りまとめ、前年度に比べて22%増額しました。そして8月には47都道府県に先駆けて人口減少対策方針をまとめました。昨年末には国の補正予算案の内示がありまして、県土整備部の一般会計分として230億円という過去5年間で最大の予算を付けていただきましたので、道路、河川などの整

備を着実に進めます。また、一般公共事業のそれとは別に、四日市港の岸壁整備に88億円の破格の予算を付けていただきました。いずれを振り返っても前向きに捉えることができた年でしたね。

——G7交通大臣会合の成果は。

一見知事 経済効果は98億円となり、非常に大きなインパクトのある会議になりました。金額だけでなく、三重県の魅力を国内外に発信できましたし、小中高大学の生徒、学生が参加して外国の大臣と触れ合うことができ、国際感覚を養うとともに自信につながりましたね。内容的にも大きな成果があったと思います。

——総合計画「強じんな美（うま）し国ビジョンみえ」と「みえ元気プラン」を具体的に加速させた昨年の評価と24年の展望はどうでしょう。

一見知事 令和4年の10月にビジョンとプ

ランを作り、令和5年はそれぞれの項目ごとに詳細な計画を作りました。重要政策を推進するため、県庁内に横断的な組織をつかって議論し、人口減少対策方針のほか、「ゼロエミッションみえ」プロジェクト推進方針などを策定しました。観光振興基本計画やリニア基本戦略も今年3月までの令和5年度内に策定予定です。今年には人手不足も大きな問題になってくると思いますが、対策は2つです。ITを使うなどして業務を効率化し、生産性を向上していくことと外国の方を受け入れる環境を整えていくことが大事だと思います。今年4月には交通、医療、農水産業など各分野の課題を検討する人手不足対策の組織を立ち上げる予定としていますし、今年には各施策を着実に推進する年にしていきます。

——具体的な子育て支援、人口減少対策は。

一見知事 子育て支援では、市町の創意工夫による子育て支援を後押しするため、「子ども・子育て応援総合補助金」を創設し、県が2分の1、または3分の2、金額にして3億円ほど補助しています。夏休みに子どもを預かる施設の人手不足解消や、保育園児のオムツのサブスクリプションなど市町にとって使い勝手がいい補助となっています。

人口減少対策では男女の給与格差は依然大きく、ジェンダーギャップの解消をはじめ、子育て支援、移住促進、人口還流の促進など、人口の自然減と社会減の対策を両輪で進めています。

——全国的な課題とはいえ、物価高が継続。県民生活の現状、対策をお聞かせください。

一見知事 物価高の要因は円安と原材料や輸送料金の値上がりです。今、急に金利を上げると、立ち行かなくなる中小企業も出てきますからやむを得ない状況です。県では、低所得のひとり親世帯への現金の給付や、県民や企業を対象にLPガスの値段を下げるための対策などを行ってきました。第一次産業への支援も含めて今後も対応を続けます。

——観光振興の具体策は。熊野古道の世界遺産登録から今年で20年になりますが。

一見知事 観光では令和5年に周遊観光のルートを決めて、宿泊施設の整備などに約2億4000万円を県が補助しています。多くの人に三重県を訪れていただくために、令和6年もしっかりやっていきます。

登録20周年の熊野古道を盛り上げるために昨年11月に県、国、観光団体、商工団体、交通事業者など74団体で構成する「登録20周年事業推進会議」を設置しました。そして2月上旬には東京で「紀伊山地の霊場と参詣道・世界遺産登録20周年記念サミット」を開催します。奈良県、和歌山県と連携して3県知事や沿道地域首長で今後の取り組みなどを協議し、熊野古道を全国にアピールしたいと思います。また、世界遺産登録日の7月7日には、記念イベントとして国際シンポジウムも開催します。サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路があるスペインのバスク自治州から関係者を招いて熊野古道と巡礼の道について意見交換します。今後、熊野では交通や案内板などの観光インフラを整備し、ホテルの誘致なども考えていきたいですね。

——今年をどんな年にしたいですか。

一見知事 カーボンニュートラル関係では、洋上風力発電への取り組みとして風の状況を調べていますし、基地港湾の選定についての調査結果も今後発表します。具体化に向けて事業者、自治体、漁業関係者から話を聞いていきます。人口減少対策もどうするか端緒をつける年になると思います。来年の大阪・関西万博では、三重県は関西パビリオンの中で2番目に広いブースを出展し、三重県の魅力を発信します。多くの方に見に来てもらえるよう観光コンシェルジュも配置したいと思います。今年は様々なイベント、施策を実行していく年になりますね。

——個人的な抱負はどうですか。

一見知事 知事就任後、趣味の山歩きができていませんし、学生時代に始めた空手（初段）も1回稽古に行っただけです。もう少し自由な時間が増えるといいなと思っています。

——ありがとうございました。